平成２３年度熊谷市自治基本条例審議会の会議概要

Ⅰ　日時及び場所

１　日時　　平成２３年１１月２２日（火）１４時から１６時まで

２　場所　　熊谷市役所　３０３会議室

Ⅱ　次第

１　開　会

２　会長あいさつ

３　議　事

⑴　熊谷市自治基本条例の推進状況について（資料１）

⑵　その他

４　閉　会

Ⅲ　委員

委員区分	氏　名	備　考
第１号	山口　雅功	会　長
	依田　悦代	副会長
	出浦　尚明	
	高橋　明代	
	新　　秀明	
	小谷野　操男	
	上村　悦子	
第２号	飯村　康夫	（欠席）
	吉田　貴子	

Ⅳ　会議概要

1　開会

※　企画課長を司会として進行

⑴　熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、会議の概要を公開することについて、承認を受ける。

⑵　会議資料の確認を行う。

⑶　欠席者の報告を行う。

2　会長あいさつ

山口会長のあいさつ

3　議事

※　熊谷市自治基本条例審議会条例第６条に基づき、山口会長が議長となり進行

⑴　熊谷市自治基本条例の推進状況について（資料１）

ア　事務局から資料１について説明

イ　討議（下記Ⅴ参照）

⑵　その他

ア　事務局から資料２について説明

イ　討議（下記Ⅴ参照）



4　閉会

Ⅴ　討議概要

1　ゴミ出しのマナーについて

（委員）ゴミ出しのマナーの悪い方が見受けられるが、妙案はないか。

（委員）私の地区では、以前は敷地内へのポイ捨てなども含めてひどかったのだが、最近はほとんどなくなった。

（委員）集積所自体にゴミの種別と出せる日を表示したりは…

（委員）それも既にやっているが、改善されない。

（委員）役員の方が強いリーダーシップを発揮し、当番制にして早朝から見張りを立てる方法を取った自治会もある。その結果大変に改善され、賛否両論あると思うが、自治会の力を見せつけられた思いがした。

（委員）最後はやはり「人」ということか。



2　自治会モデル地区について

（委員）市民主体のまちづくりという点についてであるが、町内会（自治会）の運営に当たっている方が高齢化しており、特に街中では自治会自体が消滅しつつある所もある。私の年齢位でも若手として雑務をこなしているが、それを引き継

ぐべき人がいないため問題は深刻である。一方で、逆に役職に強い思い入れがあり、いくつになっても手放さない人もいる。自治会のモデル地区の設定を検討してはどうだろうか。地域特性もあるので、市内に複数のモデル地区を設定し、協働事業として実施してほしい。市の職員も、採用されたら一定期間自治会の現場で仕事を経験してみるようにしてはどうか。



（委員）震災を契機に地域での助け合いを見直す機運が起こっていると思う。広報が届かない、地域の祭りがあっても出ていかないという問題はどの地区でもあると思うが、アンケート結果（資料２ｐ6）を見ても、「永年住みなれているから」、「友人・知人・親戚が多いから」続けて住みたいという回答が多く、近所付き合いの大切さを再認識できる。そういったつながりがなければ、昼間よそで仕事して夜は寝に帰るだけ、暑くて住みにくいから他へ移ろうという発想になってしまう。先ほどモデル地区の提案が出たが、中にはとてもよい自治会もあるので、それを広め、活性化していくような方策の必要性を感じる。

（委員）来年で自治基本条例施行から５年が経過する。基本条例の基盤となっている協働、支え合い、共助といった考え方を見つめ直すことの必要性を感じる。例えば、高齢社会の問題でも、熊谷の現状はこうなっているから、将来的にこのようになることが予想され、だから今支え合いが必要になるのだということを、再認識させる機会があればよいと思う。ハートフル・ミーティングでも、市長は真摯に受け答えをされており、それを知っている人は知っているのだが、興味がない人は全然知らないという状況がある。

（委員）私は多摩ニュータウンの建設に携わったことがあり、そこに友人も住んでいるが、現在は高齢化の問題が深刻である。今は何とか持っていても、20～30年後には熊谷もどうなってしまうか分からない。そういった意味でも、自治会モデル地区を市民協働事業として実施するような方策が今必要と考える。

（委員）個々の行事のお知らせだけでなく、やっているとは思うが、自治会の活動内容を全体として周知するようなことも必要と思う。

（委員）リタイヤした後の方々が主に活動を担っているような自治会も多いと思うが、リタイヤ前の人にどのように周知していくかが大切だと思う。ホームページにアップしても、広報に掲載しても、見てもらえないとそれまでなので、何か良い方法はないか。

（委員）自分の経験に照らしても、働いているときは仕事で手一杯で、なかなか自治会活動にまで手が回らなかったので、仕方のない部分もあると思う。

（委員）活動に参加できなくても、活動を周知し、情報が共有できるとよいと思う。

（委員）活動のある自治会でも、青年部はソフトボール活動、年配者のグループはお祭り活動という具合にグループごとに分かれており、相互の交流があまりないという事例もある。手伝いますよと申し出ても結構だと言われてしまう。

（委員）自治会の活動をしている方とそうでない方との間、自治会内部のグループ相互の間を、市が取り持ってくれるとよいと思う。大変な仕事だとは思うが、市民協働の視点からも、自治会の現場を新人職員研修の場として活用する方法は取れないだろうか。

（事務局）新人研修については、以前は八木橋デパートでの接客研修などをやっていましたが、最近はごみ収集や介護の現場での実地体験の研修を実施しています。

3　ホームページについて

（委員）ホームページをリニューアルしてもらったが、まだ改善の余地があると思う。深く入っていけず、「浅く」感じる。欲しい情報にうまくアクセスできず、ストレスを感じる。更新していない課も多いが、最低でも月１回は更新すべきだ。

（委員）市政宅配講座に「ホームページの上手な使い方」のようなテーマがあってもいいと思う。

4　総合窓口について

（委員）どの窓口かを来訪者が判断しなくても、何でも相談できる窓口があるといい。自分で見当をつけていくと、たらい回しされてしまうことがある。松戸市のすぐやる課のような部署もいいと思う。



5　市長へのメール・手紙について

（委員）市長へのメール・手紙は、市長自身が読んでいるのか。

（事務局）広報広聴課で一元的に受け付けたものを各課に配分して回答を作成していますが、回答前に必ず市長自身が１件１件目を通しています。

6　納税率について

（委員）納税率が２３位となっているが、全体でどの位に位置しているのか、上位とどの程度の差があるのか不明なので評価できない。

（事務局）担当課に確認します。

7　事務事業評価外部評価について

（委員）事務事業評価外部評価委員会の構成について教えてほしい。

（事務局）合計８人の委員を各４人の２グループに分け、各グループのコーディネーター（まとめ役）は大学の先生を充て、他は、弁護士、税理士、公募委員等の方で構成しました。

（委員）事業の中止・廃止が少ないのではないか。

（事務局）元々市のサイドでも廃止を考えているような事業は、あえて評価対象としなかったという事情もあるため、そのような印象になるものと思われます。

8　駅前の風俗店を紹介する店について

（委員）施策「犯罪の起こらない環境整備」に関連するが、駅前に、また、風俗店を紹介する店ができてしまった。何とか規制する方法はないのか。事前に情報をキャッチして、説得するなどはできないか。

（事務局）熊谷駅前防犯センター安心館に熊谷図書館駅前分室を併設しているため、風俗店の新規出店には制限がかかるのですが、既存店や風俗店を紹介する店（風俗店そのものではない）は、規制できないのかと思います。

（委員）協働事業という視点からは、協働の「手法」の研究が必要と考える。市民だけではこなせない、やり切れない部分について、市がどのように関与すれば効果があるのか、市ならではの役割としてどのようなことが求められているのかといった視点から研究し、市の側からも意識的に提案してほしい。協働事業によって風俗店に撤退してもらう方法もあるかもしれない。仮に協働事業として成立しなくても、課題を発見できるというメリットはあると思う。

以上